

農業と福祉の連携事例

- 障害者就労施設が、有機農業によって付加価値の高い農作物を生産し、また、加工・販売まで手掛けること(6次産業化)によって、高い工賃(賃金)を実現している事例もある。
- また、農業分野には、多様な作業があることから、障害者の特性に応じた仕事を開発することにより、より多くの障害者の雇用・就労につながる。また、地域の農家ともつながることにより、地域活性化や地方創生にも資する事例もでてきている。

就労継続支援A型事業所の事例

(事例1)(社福)進和学園(神奈川県)

- 法人内で生産する農産物を基盤に、**県内農産物を加工・販売することにより、障害者の働く場を広げ、地域の農業を活性化。地元農家や農協、行政とネットワークを構築し、地域全体で連携して取り組む。**
- A型利用者約20人のうち、一部(※)が、地元の野菜や果実からジュースやジャムを製造し、販売する。
- 2019年度の平均月額賃金:約15万円
※農業以外に自動車部品組立作業も行っている。

(事例2)(株)九神ファームめむろ(北海道)

- 就労継続支援A型事業所として、**農業と加工作業を組合せて通年の作業を確保。20人の利用者が、主にジャガイモの生産と加工を行い、総菜チェーンや地元の食堂に販売し、安定収益を上げている。**A型利用者から支援スタッフへのキャリアアップも実現。
- 地域の高齢者を積極的に雇用し、農業の経験や知恵を伝承。高齢者の生きがい創出にもなっている。
- 2019年度の平均月額賃金:約12万円



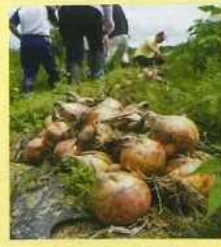
就労継続支援B型事業所の事例

(事例1)(社福)ころん(福島県)

- 当事業所では、約30品目の野菜を生産。同じ法人で運営する**養鶏場の鶏ふんを使った自家製堆肥による土作りなども行い、農薬を使わない野菜作り**を行っている。
- 直売店やネット通販、車による移動販売も行い、売上げ確保に努めている。**外出が困難な地域住民にとって、買い物支援の役割**も担っている。
- 精神障害のある約30人の利用者が、それぞれの適性と体調を判断しつつ、就労に必要な体力、忍耐力、チームワークを養いながら作業している。
- **地元の農家から請負で作業を行う「施設外就労」に取組むことで、地域の農業を支えている。**
- 2019年度の平均月額工賃:約2万2千円

(事例2)(社福)佛子園(石川県)

- 当事業所では、**使われなくなった畑地を耕し、主にカボチャとブドウ、他にもトマト、ピーマン、ブルーベリー等の少量多品種の野菜や果物を生産**している。ブドウの選定作業などは、地域の高齢者の協力を得ている。
- 農産物は、JAの直売所や施設内の市場で販売している。施設内の市場には地元の農家も出店し、**高齢化・過疎化が進む地域の農家にとって新たな販路拡大、所得確保の機会**にもなっている。
- 約40人の利用者の多くは知的障害者で、農業の他に、法人内で製造するクラフトビールの瓶詰めやラベル貼り、レストランでの清掃、調理補助、接客にも取り組む。
- 2019年度の平均月額工賃:約3万円



資料:厚生労働省